
2024 年 9 月 7 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

テーマ『消えてゆく姿の奥にある神聖を観る』

この世や肉体界寄りのあの世に生きる人々の多くは、神聖を忘れ果てた自己認識を持っています。そのためそれらの世界には、自分を実力以上に見せようと虚勢を張る人がいたり、自らを実力以下に見下し自身を弱者認定する人がいたりします。

それらの階層に意識が常住する人々は、自らが神と呼ばれる完全性を持つ存在(光)の一部である事実を見失っているがゆえに、自他に不完全性を認め、批判・非難・評価を繰り返しています。「誰は善い」とか「悪い」とか、「誰が好きだ」とか「嫌いだ」とか思いながら、それぞれがそれぞれを批判・非難・評価し合いながら生きているわけです。

そのような世界にあって自らの神聖を完全に思い出し、その性質を自身の想念・言動行為に顕して生きている人々は、自他に完全円満性のみを認め観ています。そうした人々に共通する特徴は、自他の表面に表われた言動行為をその本質とは観ずに、すべてを”地球界完成に至るプロセスなり”と観て、かつそうした一見神聖と観えない事々に”消えてゆく姿という名の天使の羽根”を付け、掴まず手放し、天に還元できている点です。

また、神聖の視座に立ち、不調和と見える世界の有り様を俯瞰視してみますと、神聖に至らない階層の何処にも、完全な善人もまったくの悪人も見つけることができません。なぜなら、一人一人の中に善と悪、表と裏、光と影ともいえる二面性が共存し、それらが種々に絡み合いながら性格や人間性を醸し出しているからです。

善人だと思っていた人が、実は裏で悪人としての面を持っていたとか、悪人だと思っていた人が、実は裏で善行為を自然に行なえる人物であったという事例は、この世だけでも枚挙にいとまがありません。その意味では、人間が自他に対して行なっている批判・非難・評価ほど当てにならないものはないといえます。

こうしたことは本来、自らの本質を神と認められ、すべては神聖の時代に至るプロセスと喝破できていれば、なんら一切の批判・非難・評価の想いも湧き起こらず、すべてに生命の本質たる神聖を認めながら、輝かしい未来創造の意識で生きられるため必要ありませんが、神聖の扉の前で逡巡しているときには、こうした話が参考になる場合もあるため振り返ってみました。

また現代は、私たちが自分や他人に対して何を感じ、何を聞き、何を見、何に触れたとしても、『すべては自らの責任であり、他に責任を帰すのはお門違いである』という、昭和 37 年に打ち出されていた【すべては自己責任（自分ごとの真理）】を自らのものとする絶好の時代(とき)が到来しています。

なぜそう断言できるかと申しますと、地球界全体の精神波動と物質波動が霊界の波動圏に近づいており、本当の真理を腑に落としやすい局面に生きているからです。私たちは今、名実ともに、消えてゆく姿の奥にある神聖を自らに顕わすと同時に、その内面たる神聖を他に映し出して、すべてに神聖を観ることが出来る時代に入っているのです。

もっとストレートに申しますと、『私たち自身が世界をどう観ているか』こそが重要なのであって、世界や他人が今どうあるか（他者や状況がどのような神聖復活のプロセスを歩んでいるか）は、私たちを左右する何ものにもなり得ないのです。

だからこそ、『宇宙神と一つに結ばれている私、〇〇を犯すものは一切何もない』という真理の道理が通るのです。そのようなことを思い出したうえで土曜日の夜は、消えてゆく姿の奥にある神聖を観て、地球上のすべて

に宇宙神の光を放ってまいりたいと思います。

2024 年 9 月 7 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。土曜日夜の『神聖で繋がり合う日』のプログラムを始めます。木曜日に送信したメールのなかで、『消えてゆく姿の奥にある神聖を観る』という文章を書きました。

そこで今回は、呼吸法をとおして、消えてゆく姿と観える世界の状況や自他（自分や他人）の言動に対して感じている様々な想いを、吸う息に乗せて心の奥の奥の奥にある天に預けて、その代わりに、光り輝いた神聖での認識を受け取って、私たちのこの肉体の認識に降ろし、広げてゆく練習をしてまいります。

「ローマは一日にして成らず」の諺のように、私たちの神聖復活の道程も、日々瞬々刻々の不断の練習のうえに成就されてゆきます。お祈りや印を一日中できるならそれが一番ですが、仕事や生活がありますと、そうしたくてもできない方は、私を含めて多いと思います。

そこで、呼吸法をとおして神聖を離れた認識を守護霊さまに明け渡して、代わりに神聖そのものの認識を受け取ることはできないかなと思い試してみましたところ、これが思いのほか効果的でした。

そこで本日は、このあとに行なう世界平和の祈りの後に、吸う息をとおして消えてゆく姿の想いを心の深いところにある天に還元して、それと交換する形で、吐く息をとおして神聖の認識を表面意識に染み渡らせる時間を取ってまいります。

これが習い性になりますと、いつでも神聖の認識でいられて、苦悩を感じなくなってきました。こうした工夫は、皆さんがそれぞれに編み出されて、ご自分の言動行為に行ない表わされていることと存じますが、本日は目の奥に息を入れ込む呼吸をとおして、消えてゆく姿の奥にある神聖を観てまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりますので、はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。
日本が平和でありますように。
私たちの天命が完うされますように。
守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.
May peace be in our homes and countries.
May our missions be accomplished.
We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

2. 消えてゆく姿の奥に神聖を観る呼吸法（呼吸法の唱名）

はい、ありがとうございます。次は、神聖復活の印のときの呼吸法で 10 分間、呼吸法の唱名を行ないます。呼吸法の唱名をご存じない方がおられるかも知れませんので少し説明します。初めに一気を深く吸いながら、

心の中で「わーれーそーくーかーみーなーりー」と唱え、次に、数秒間、そんなに長くなくてもいいです。息を止めて、心の中で「成就」と宣言します。最後に、息を吐きながら、心の中で「じーんーるーいーそーくーかーみーなーりー」と唱えます。

今回は前々回と同様に、この呼吸法を神聖復活の印のときの鼻腔の奥を鳴らすバイブレーションの呼吸法で行ないます。そのときに、一回一回の息を吸うときには、消えてゆく姿とを感じる状況や性質などを具体的に思い浮かべながら、吸う息とともに守護霊・守護神さまにお渡しするイメージで行なってみてください。そして息を止めたときの「成就」で、送り届けた状況や性質がキレイになり神聖が表面化したものとして、吐く息とともに神聖が顕われている状況や性質として肉体の意識に受け取ってみてください。

それを確実なものにするために、息を吸い切るときには、目の奥にまで息を届かせるイメージで呼吸をしてみてください。そして、息を吐くときには、吐き切ることを意識して行なってください。また、いつも申し上げます通り、呼吸法を行なっている間の呼吸の速さは、ご自分の無理のない範囲のペースで行ってください。音楽をかけますので、音楽が終わるまで行ないます。10 分間です。それでは始めます。

***★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

3. 神聖復活の印

次は、神聖復活の印です。「はい」の合図で、ご一緒に宣言をしてお組みください。7 回連続を 3 セット行ないます。それでは始めます。はい。

< 一回目の宣言 >

神聖そのものの私達が大自然を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

< 二回目の宣言 >

神聖そのものの私達が生きとし生けるものを抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

< 三回目の宣言 >

神聖そのものの私達がすべての人類を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

***★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

以上